なにわたいむず

No.103

contents

01 news／管理者うるしまのミモヤマバナシ

02 お母さんの日々あれこれ

03 プラマエダ／アトリエナニワ

04 Case Book

06 ジムインこいけのなんでも日記
サポータークラブ

07 スタッフ紹介

クレープ屋さんに来て頂きました！

6月17日(木)、ライフサポートなにわにクレープ屋さんが来ました！なかなか外出の機会がなく、利用者さんの楽しみが減っている…ということで、お楽しみ企画として実施致しました。なお、係る費用に関しては、なにわの里と歩む会から頂いたご寄付を充てさせて頂きました。

クレープ屋のお姉さんに「チョコがいい」「私はバナナ入り」と楽しそうに注文していました。言葉でやりとりするのが難しい利用者さんは、写真を指さして伝えたりしていました。天候にも恵まれ、楽しい一日になりました。(小池)

NEWS

利用者さんへのワクチン接種

8月2日(月)午後に、なにわの里の利用者さんへの2回目の新型コロナウイルスワクチン接種を実施致しました。

翌日、翌々日は入所・グループホーム利用者さんについては日中活動をお休みにして居室等でゆっくりと休んで頂きました。およそ半数の方に発熱などの症状が見られましたが、3日後には全員の方の熱が引き、日中活動も再開となりました。利用者さんが接種を終えたことで、少しほっとした気持ちです。(小池)

管理者コラム

自分を道具として…

五十七年ぶりの東京オリンピックが、すったもんだの末開催されました。この記事を書いている現在では、日本人選手の華々しい活躍が報道される中、感染者数が急増し、緊急事態宣言の拡大が行われようとしています。

全国的に感染者数が増えている中、なにわの里の利用者さんへの2回目のワクチン接種が8月初旬に実施されました。ワクチンは一定の有効性が実証されており、接種を終えることでより安全な状況になります。法人としても最優先で進めたいと思います。

現在法人内では、「ワクチン接種後に感染対策をどのように変えていくか」といった議論を行っています。ワクチンを接種することで、以前ほど感染を怖がらなくて良い状況になっているはずなので、当然、今までとは違う対応で然るべきなのですが、何をどう変えていくのが良いのか、判断がとても難しいと感じています。始めるよりも止めるほうが難しい！議論を重ね、より良い答えを探していきたいと思います。

話は変わりまして、最近受けた研修で、「対人援助職は“自分を道具として”相手と関わる仕事である」ということを学びました。支援者の体調や気持ちのありようが、支援を受ける側に影響を及ぼすとのこと。料理人が包丁を研ぐように、ドライバーが車を整備するように、私たちは良い支援を行うため、自分の状況を把握し、心と体を整えておくことが重要です。

自分のケアをすることがより良い支援に役立つことに気付くことで、気持ちが楽になる自分がいました。無意識のうちに、自分よりも他を優先しなければという気持ちが働いていたのでしょうか。世の中はますます大変な状況になりますが、肩の力を抜き、自分のことに目を向ける時間を大切にしていきたいと思う日々です。

ヨモヤマバナシ

お母さんの日々あれこれ

お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

たくさんおでかけしたい！

コロナでさまざまな学校行事がなくなり、外遊びの楽しみも減って、今までの"普通だった生活"はがらりと変わってしまいましたよね☹前みたいな"普通の生活"でしたいこと、娘に聞いてみました。

娘は、「もちろんプールに行きたい！運動会をしたい！遠足に行きたい！あと、マスクを取りたい。給食を食べながらおしゃべりしたい！」と言っていました。

私は、娘には外に出て体力を使ってほしいなぁと思います(^-^;公園で遊んで、キャンプをして、花火大会に参加して屋台でおいしいもの食べて、などなど…。親子で一緒にいろいろなことを楽しみたいですね♪

コロナがこんなに長く続くとは思っておらず、娘も日々体力が有り余っているのが分かります。早く前みたいな、いろいろ自由な生活がしたい！そして親子での楽しみをさらに増やしたい！と切に思います☺

by M

家族と思い出の地を回りたい

娘は入所施設を利用していますが、コロナになって初めて娘と一年以上会えない日々が続きました。コロナが落ち着いたら、まずは家に娘と帰って一緒に過ごしたいです。

また、ドライブに出かけたいですね。娘はドライブでお出かけをするのがとても好きなので。

お父さんとよく歩いたハイキングコースを歩いて、お父さんとの思い出の地を回りたいですね。一日でも早く娘と会いたいです。

by N

早いものでコロナが流行り始めて１年以上…マスク生活はいつまで続くのか、つらい世の中ではありますが、『コロナが落ち着いたらあんなことしたいなぁ・こんなところに行きたいなぁ』と、夢は膨らみますよね♪

そんなお母さん方の夢を聞かせていただきました。

（中林・吉岡(明)）

今回のテーマ

打倒コロナ‼
～私たちの夢～

地域で暮らす当事者の方や、ご家族が使える
社会資源を紹介するコーナーです

「柏原市障害福祉は コンパクトに連携」の巻

はじまりました。新コーナーの「ブラマエダ」（前コーナーからタイトルと担当が変わっただけのようにもみえますが、気にせず）。第一回目は新庁舎が完成した「柏原市役所」です。普段、大変お世話になっております障害福祉課のSさんにお話しをうかがいました。

マエダ「こんにちは。いつもありがとうございます。新庁舎は如何ですか？」

Sさん「誰にとっても使いやすいユニバーサルデザインの徹底が図られました。車椅子の方にも利用いただきやすくなったことや、衝立の設置等、プライバシーが確保されるようにもなりました」

マエダ「確かに今までとは見違えるほど整備されましたね。ところでコロナ禍の中でのご苦労は」

Sさん「行政マンが感染しクラスターが発生してしまうと、市役所の機能が止まってしまうという危機感は常にあります。隔日出勤、時差出勤等々、工夫しながら、何とかという状況です」

マエダ「Sさんは、障害福祉課での業務も長いですが、これまでを振り返って何かあれば」

Sさん「大きい自治体は分業が進んでいると思いますが、柏原市は良くも悪くもコンパクトなので、児童・成人・医療等、幅広く障害福祉に携われました。更に長く関われたことで、様々な課題がみえてきたと思います。柏原市の事業所さんは皆さん一生懸命で仲が良いな～と思います。自立支援協議会などでも、地域の課題を抽出し共有できていることが重要と感じています。財政が厳しい中ですが、皆さんと一緒に、一つひとつの課題を、事業化できた時には、やはり、やりがいを感じます。一気にいかないことは多々あると思いますが、心ある人や組織の皆さんと連携しつつ、一歩、一歩と思います。なにわの里の皆さんにも大いに期待しています」

Sさん、今回は恥ずかしいとのことで、顔出しNGでしたが、まさに行政マンの鏡。まだまだ未整備である障害児者福祉の世界だからこそ、Sさんのような行政マンが求められているのでしょう。コンパクトを強みに、一体となって進んでいければと思います。ありがとうございました～。

アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や
支援ツールを紹介するコーナー

サテライトニュース

【ツールの説明】
生活介護事業「サテライト」にて、利用者さんに予定などをお知らせするためのツールです。例えば担当スタッフの変更やイベントの予定などを、ニュースを介してお伝えしています。

【ツールのメリット】
複数の利用者さんに対して、同じタイミングで整理された情報を周知ができるため、混乱を防ぐことができます。またいつも同じ媒体を使うことで、掲示した際に注目しやすくなるよう工夫しています。

（ 広谷 ）

atelier naniwa

Case book

なにわの里　支援の実践紹介

感染症への対策実例

入所・GH 支援２係　　市原　誠

2021 年 3 月にライフサポートなにわ内で新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。施設内の感染収束に向けて職員が一丸となってできる限りの対策を講じました。そのかいもあってなんとか収束を迎えることができました。

今回はなにわの里職員がウイルスから職員自身と利用者さんを守るために戦っている日々の実践についてご紹介したいと思います。

【法人全体での取り組み】

昨年、日本国内でコロナウイルスの感染が報道され始めた時期から、法人として感染症対策に力を入れてきました。特にエリアを入所１Ｆ、入所２Ｆ、グループホームに３分割し、日中場面を含めエリア間の利用者さんの交わりを無くしたことです（以下「ゾーニング対策」とします）。感染者が出た場合に感染の拡大を食い止める目的で行いました。

ゾーニング対策のおかげで、クラスター発生時もエリアを超えての感染は抑えることができました。しかし、エリア内で感染を拡げてしまったことは事実です。クラスター収束後に法人全体でもう一度感染症対策を見直し、有効な手立てを検討していきました。ここからは、具体的な内容を含め入所施設で実施している取り組みを紹介していきます。

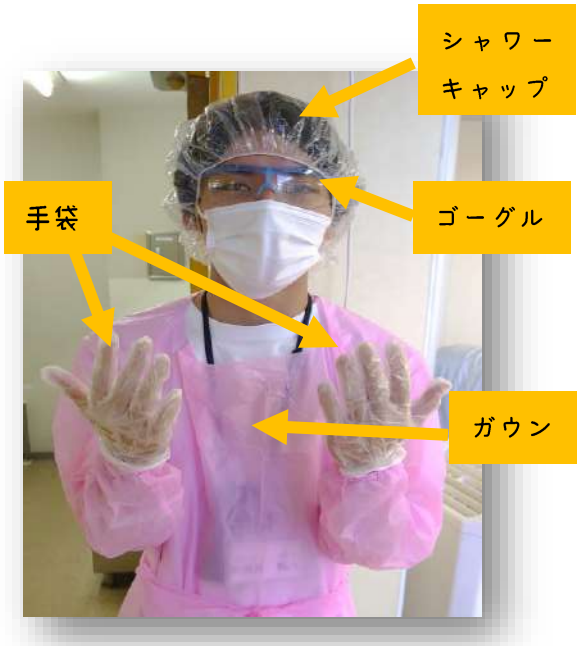
１）職員への最新の感染症に対する知識の啓蒙活動

厚生労働省が発表している新しい情報を職員に向けて発信し、感染症の知識を毎回アップデートしています。例えば、食堂に私語厳禁のチラシが掲示されているのですが、食事中の会話があることで濃厚接触者になる可能性があることが報告されています。濃厚接触を防ぐためにも、黙食が必要であることを伝える掲示物を貼ることで、職員一人ひとりが意識的に注意しなければならないことへの理解を深めています。

２）各職員がアルコールスプレーとゴーグルを携帯

職員が現場に入るときは、必ず右写真のポーチを携帯しています。その中にアルコールスプレーとゴーグルなどを常備しており、触ったところをすぐにアルコール消毒をするように心がけています。利用者さんの中には手洗いが不十分な方もいますので、手洗いをした後に仕上げで職員がアルコールを吹き掛けるときにも重宝しています。対人支援は人と接することなくして成り立ちません。そのため、近い距離でコミュニケーションをとる必要があります。その時に飛沫などが飛ぶ恐れがあるので、目からのウイルスの侵入を防ぐためにもゴーグルやフェイスシールドの着用を推奨しています。

３）感染症が広がる活動（歯磨きや入浴など）に対する徹底した個人用防護具（PPE）の装着を促進



個人用防護服とは、マスク、ガウン（エプロン）、手袋などの総称です。例えば、歯磨きはどうしても介助者に唾液の飛沫が直接かかってしまい、飛沫感染の恐れが大いにあるとされています。そのため、職員がガウンと手袋、シャワーキャップ、マスク、ゴーグルを装着し歯磨きを実施しています。とりわけ注意していることとして、極力飛沫を浴びないようにするため、歯磨きを介助対象者の対面でせず斜めの位置または後ろから介助するように注意しています。

１人終わるごとに手袋を新しいものに変えて次の利用者さんの歯磨きを行うことで、職員がウイルスの媒介になる可能性をできる限り最小限にしています。

入浴も同様に PPE を装着して利用者さんの介助をしています。

【最後に】

施設内感染を経験した我々だからこそ、苦い記憶から二度と感染を拡げてはならないという強い気持ちを胸に日々防止に努めております。

私は、クラスター発生前は新型コロナウイルスに関してどこか他人事で対岸の火事のように思っていました。実際にクラスターを経験し、防護服を着用して入所施設で支援にあたっていた時はすごく辛かった上に、うつるのではないかと怯えながら仕事をしていました。新型コロナウイルスの恐ろしさを、身をもって感じました。利用者さんもこちらの表情を読み取れず不安も強かっただろうとあの頃を振り返って思います。

現在もガウンを装着して対人支援にあたるのは本当に大変です。特に夏場はとても暑く汗だくになりながらしています。ですが、自分たちの取り組み一つひとつが自分自身ひいては利用者さんの安心に直結しているのだと自負しています。これからも感染防止を徹底しつつ利用者さんの安全を最優先に支援をしていきたいと願っております。マスクなしでお互いの笑顔を見せあえるようになるその日まで。

ジムインこいけのなんでも日記

「ない」ことで気づくこと

6月に母校である関西福祉科学大学で、講義をさせて頂きました。この春学期、私自身も大学院に聴講生として通っていたので、同じ立場同士で変な感じだったのですが、これまで自分が学んできたこと、今自分が大切にしていることについて、次を担う学生さんたちにお話しさせて頂きました。

8年ほど前にパニック障害という病気を患い、今も通院や服薬を続けています。体調を崩したことで、周りに迷惑をかけてしまったり、自分自身も思うようにならないことがあったのですが、「今自分が大切にしていること」のほとんどは、体を壊した後に気づいたり、考えたりしたことなのです。

今、ライフサポートなにわにある花壇で花を育てているのですが、昔だったらやらなかっただろうな、と思います。花に水をあげながら、ぼーっと眺める時間の大切さは、以前の自分だったら気づけなかったと思います。「そんなことしているスキマ時間があるなら、仕事一つ片づけられるじゃないか」と花壇にたたずむ髭面のおじさんを急かしていたのではないか、と思うのです。

何かができなくなったから、できることがある、というのは確かにそうなのだろう、と感じます。逆に何かができるようになったら、何かを失っている、というのもそうなのだろうな、と思います。別にそれは寂しい事でもなく、自分らしく歩んでいるのならそれでいいのではないか、と思います。

とにかく頑張らなければ、といつも肩に力を入れていたやせ型で短髪の青年がいたからこそ、今の髭面でちょい太の自分がいる、と感じます。今の自分の方が好きであると同時に、やせ型の青年に「ご苦労さん、もう自分のペースで行けばいいよ」と伝えてあげたい、そんな40歳の夏であります。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2021年4月1日～6月30日　　（敬称略・順不同）

光田 一二三　油利 悦彰　西村 透　馬場 幸枝　小畑 チヅ子

山下 孝子　森 克雄　小島 純子　渡邉 信邦　田中 賢一

坪田 信道

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

添野　美生
（入所グループホーム
支援１係）

―　社会人２年目に入って、どうですか？2020 年４月の自分と変わったなと思うところはありますか？

学生の頃は、自分が考えたことに対して何か意見を返されると、ちょっとイライラしてしまったり、みたいなことがありました。この前、初めて担当利用者さんの支援計画を先輩方に対して発表する機会があったのですが、厳しい意見も含めて「教えてもらえている」「ありがたいな」と思えることができて、そのあたりが変わったなと思います。家でも母親にそんな風に言われたことがありました。

―　そうなんですね。変わった添野さんがいる一方で、変わらない添野さんもいると思います。入職した時から変わることなく利用者さんに丁寧な声掛けをしていて、それは素晴らしいなと思います。

―　添野さんが福祉の仕事を選んだのは、どうしてなのでしょう？

中学や高校の頃から高齢者の方の介護などに関心があって、大学は保育の分野を選びました。ただ、保育の道に進むのがいいのかどうか迷うところもあって、短大に２年通った後、介護福祉士を取得できるコースに１年通いました。その時に実習で障害のある方の施設に行ったのですが、それがとても楽しくて。言葉のない方も「いやなことはいや」とジェスチャーで表現されたり、自分の思っていることをストレートに出してくれるのが自分に合うなと感じました。

今２年目なのですが、一人の利用者さんとの関係性を先輩に褒めてもらえたのがとても嬉しかったです。まだまだわからないことが多いですが、利用者さんの新たな姿を発見していけるのも、この仕事の楽しいところだなと思います。

第 103 号
2021 年 8 月 20 日発行
発行責任者　前田研介
社会福祉法人　なにわの里
〒582-0025　柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202
E-mail　naniwa@naniwanosato.jp
HP http://naniwanosato.jp

Facebookでチェック

右の QR コードから
かんたんアクセス！